

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
京都市左京区田中大塚町49
075-701-3164

山陽丸百航海記念

祝賀会に思う

中国支部長
松谷健一郎



今年の4月下旬、山陽丸百航海記念祝賀パーティが広島市内のホテルで開催された。

山陽丸というのは中国電力の石炭輸送専用船で、日本郵船に帰属する。当時山口県宇部港に入港できる最大船形として設計されたこの船は、昭和59年12月に竣工して以来、豪州、北米、南アフリカといった産炭地から石炭を輸送しており、このたびのパーティは、処女航海から11年2ヵ月で百回目の航海となったことを記念して開か

れたものである。

この間の航海距離は185万km、地球を46周したことになる。また輸送した石炭は835万トンで、電力量に換算すると約200億KWhものエネルギーを運んでくれたことになり、電力の安定供給に多大の貢献をしてくれたことに大変感謝したい。

戦後当社(中国電力)の開発した電源はまず水力で、火力は石炭火力、それも低品位炭の宇部炭を使用する火力が主体であった。その後昭和30年後半から40年代にかけて、燃料は石炭から石油に移行していく。それは、1バーレル2〜3ドルという低価格の石油が中東から輸入されるようになったからである。為替が300〜360円としても、1KWh当たりの燃料費は1円〜1円30銭程度という非常に低廉な



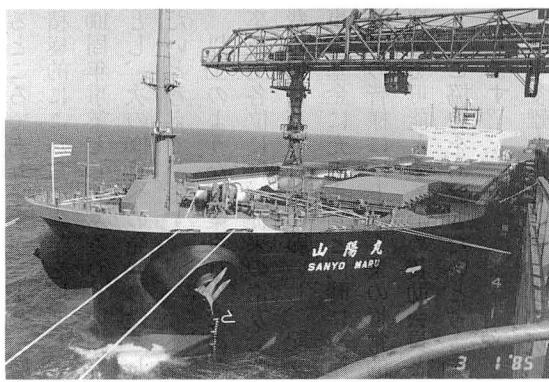
ものであった。しかも瀬戸内海沿岸部に石油精製所が数カ所でき、それに隣接して石油火力を建設することで、パイプによる重油の直送が可能という地の利を得ることとなり、昭和40年代には、ほとんどの火力は石炭火力から石油火力に改造され、すべて石油火力というような状況となった。

そして石油危機を迎える

まず、昭和48年の第4次中東戦争に伴うアラブ諸国の石油輸出停止により石油価格が4倍の1バーレル10ドルへ上昇(第1次オイルショック)、昭和53年にはイラン政変を機に、その3倍の30ドルへと上昇した(第2次オイルショック)。石油危機は政情の不安定な中東に依存する、石油中心のエネルギー体制を改めて問い直すこととなり、国際エネルギー機関は世

界の電力会社は石油火力からの脱却をとさげび、日本の通産省も、石油火力に対しその後の新設を認めない措置をとった。
私は第2次オイルショック後の電気料金改定の仕事に携わったが、当社の石油火力のウエイトが高かったことから全国最高の値上げ率となってしまう、その影響の大きさに驚くとともに値上げのつらさを身にしみて感じざるを得なかった。

こうした経験から、昭和56年社長を拝命した時も、次に電気料金を値上げする時には社長をやめるといふ気概で仕事に取り組んだ。とりわけ、当時70%という石油比率をなんとかしても引き下げることが、私にとって最大の使命であった。私は火力のうち、かつて石炭



から石油に転換していたユニットを、再度石炭に転換することを真剣に考え、これを実施し、さらに石炭火力の新設を計画した。そしてそこで焚く石炭を海外に求めた。これが山陽丸の起源である。

さらに言えば、山陽丸とは個人的にも大変関係が深い。船尾の『山陽丸』という文字は私の書いたものである。また昭和59年の命名式の支綱切断は私の家内がおこなった。私は家内のそばに立って、『綱の頭を出刃包丁でたたき落とすように切れ』と助言した。その甲斐あって支綱は一振りで切れ、その直後に船尾の幕が落とされて『山陽丸』の字が現れた。

私が『何と下手な字だなあ』と独り言を言うと、私の隣にいた日本郵船の宮岡社長(当時)が、『いや、力強い字ですよ』となくさめてくれ、私は救われる思いがしたものである。

今日に至るまでのさまざまな出来事を振り返りながら、『山陽丸よ、今後も平穩無事な航海を』と心の中で念じグラスを傾けた。

中国電力(株)取締役常任相談役
平成7年11月3日付叙勲で
勲一等瑞宝章を受章されました。

京都大学工学部電気工学科 創設100周年記念事業について

電気系教室 洛友会

平成8年5月25日に開催された洛友会総会におきまして、教室から提案されました「京都大学工学部電気工学科創設100周年記念事業（素案）が承認されました。以下ご報告申し上げますと同時に今後のご支援を心からお願い申し上げます。

『電気系教室の沿革』

京都大学工学部電気工学科は、明治31年（一八九八）京都帝国大学理工科大学電気工学科として発足して以来、平成10年（一九九八）をもって創設100周年を迎えることとなります。

この間、電気工学関連分野の発展に応じて講座の整備拡充が図られる一方、戦後の電子工学のめざましい進展に伴い、全国の大学に先駆けて昭和29年（一九五四）に電子工学科が設置され、さらに、電気電子工学における総合化の一環として電気工学第二学科が昭和36年（一九六一）に新設されました。以来、これら電気系3学科を統合して、電気系学科として教育・研究の系運営がなされて参りました。さらに21世紀を前にして科学技術

の飛躍的發展とそれに伴う社会情勢の激しい変化に対応していくため、大学院重点化構想に基づいて学部・大学院の改組が平成7年（一九九五）に実施されました。ここに、学部は3学科から電気電子工学科として1大学科に改組されると同時に、大学院も電気工学専攻、電子物性工学専攻、電子通信工学専攻の3専攻に改組されました。また平成8年度から工学部や原子エネルギー研究所の一部とヘリオトロン核融合研究所のセンターの教官を核としてエネルギー科学研究科が設置され、今後さらに工学研究科の新たな再編も模索されようとしております。

わが電気系教室の卒業生は、創設以来7千名に達しており、産業界・官界・学界などにおいて、日本はもとより世界的に活躍され、社会の発展に貢献されておられます。

この100周年という記念すべき時を機に、電気系教室の新たな100年への発展を願うべく、後記の100周年記念事業（素案）の計画が洛友会として承認されました。

『100周年記念事業』

- 1、記念行事(100万円)
 - a、100周年史の刊行
 - b、記念講演会と祝賀パーティの開催
- 2、記念事業(150万円/年)

a、技術交流システムの構築
電気系教室と産業界との交流をより一層緊密にするため、年2回技術情報誌を刊行、賛助会員企業に配布し、教室の研究成果の産業界へのフィードバックを強化する。

b、国際交流の活性化
留学生奨学金の創設、大学院学生国際会議出席旅費の支援、教室教官が主催する国際シンポジウムやワークショップなどの支援。

c、大学院教育の充実
大学院学生の教育助手（ティーチング・アシスタント）への活用支援。

3、洛友会の従来業務の継続と事務機構の整備(200万円/年)
a、従来の洛友会の事業の継続
b、事務機構の整備充実
新規に前記の記念事業の業務が恒常的に増加することに対応する事務機構の整備充実。

わが電気系教室は、既に産業界との交流に多くの実績を有し、また多数の留学生の受け入れや、諸外国の大学研究機関との研究協力など国際交流に大きく貢献している。

るところであります。より一層積極的にこれらの事業を展開し、100周年事業としてふさわしい内容とし、次の100年への発展の礎としたいと考えています。

以上のような事業を行うため、卒業生各位には、従来の洛友会会費の他に「寄付をお願いし、記念事業基金に充てます」と同時に、産業界の皆様には上記事業の恒常的運営を可能とするため賛助会員としてご協力をあおぎたいと考えております。

諸事多難な折とは存じますが、何卒この趣旨にご賛同いただきまして各位の格別のご高配・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。秋頃から募金活動が始められるように致したく、ご協力の程よろしくお願い致します。

(文責 田丸啓吉33卒)

求む、新しい学歌

一九九七年に創立100年を迎える京都大学は3月12日、記念事業として設ける『新学歌』を一般から募集すると発表した。7月末まで募集した後、選考委員会で審査。'97年11月に開く記念式典で披露する。

『九重に花ぞ匂へる』の歌詞で始まる京大の現在の学歌は、戦前の一九四〇年に制定。今では合唱団や応援団員を除いてほとんどの京大生が歌えない。

プロ、アマ問わずだれでも応募でき、グループでも可。歌詞だけでなく、歌詞と曲でもよく、応募点数の制限はない。いずれも自作、未発表作に限る。歌詞はA4判用紙を使い、2番か3番まで。曲はB4判、またはA3判の五線紙を使用する。

『新学歌』に採用される最優秀作品には、賞状と、歌詞のみの場合は20万円、曲付きの場合は30万円を贈る。
応募、問い合わせは京都大学庶務課『学歌係』(075-753-2028)へ。

名誉教授称号授与式

平成8年4月5日(金)午前10時30分から、名誉教授称号授与式が京大会館において挙行された。称号を授与された方は50名で、洛友会関係者は次の方々です。

- 佐々木昭夫(工学部)
- 津田孝夫(工学部)
- 木村磐根(工学部)
- 西川禎一(工学部)

教官の移動

次のような異動がありました。

メデイヌリシラジ

平成8年3月31日、電気工学専攻複合システム論講師を任期満了により退任。

(昭和61年電気工学専攻博士修了)

中島 弘之

平成8年3月31日、電気工学専攻電気システム論講座(電力システム)助手を退任し、近畿大学工学部電気工学科助教に就任。

(昭和59年電気工学第2学科卒)

仁田 旦三

平成8年4月1日、電気工学専攻電磁工学講座(超伝導工学分野)助教より、東京大学大学院工学系研究科電気工学専攻教授に昇任。

(昭和42年電気工学第2学科卒)

東海 彰吾

平成8年4月1日、電子通信工学専攻通信情報工学講座(マルチメディア工学分野)助手に採用。

斎藤 啓子

平成8年4月1日、教務職員(技官)より、電気工学専攻電力工学講座(電力変換制御工学分野)助手に昇任。

白井 康之

平成8年5月11日、電気工学専攻電磁工学講座(超伝導工学分野)助手より、エネルギー科学研究科応用熱科学講座(プロセスエネルギー学分野)助教に昇任。

(昭和55年電気工学科卒)

退官にあたって

木村 磐根



3月末に京都大学電気系教室を停年退官して2ヶ月が経過致しました。新しい職場である大阪工業大学の情報科学部にもだいぶ慣れましたが、6月1日退官記念行事をやって下さることもあって、元の研究室とのコミュニケーションがまだかなり太くつながっておりまして、まだすっきり退官したような気分にはなっておりません。また最近の仕事の上で研究室のコンピュータシステムへの依存度が高かったので、新しい大学で独自の計算機システムで仕事をしよう

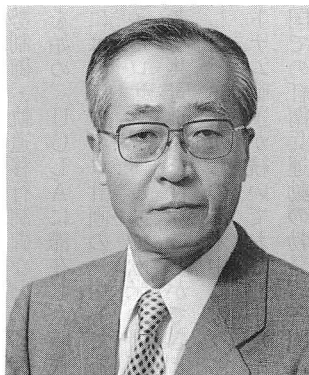
とすると、なにかにつけて元の研究室の、若い計算機のベテランに頼らなければならず、いつになつたらほんとうの意味で元の研究室から独立できるか許さない限りです。

私は電気工学第二学科では無線通信工学講座を担当しておりますので、教育面では電波工学や、通信基礎論などの講義を行い、研究面では電波工学の応用面で、リモートセンシングやアンテナの研究などを若い人によつてもらっていました。私自身は3月1日の退官講義でも話させて頂きましたように、専らスペースサイエンスの分野の研究をやらせて頂き、楽しい研究生を送ることができたことを感謝しております。

卒業研究や、修士論文などで、

停年退官に当たって

西川 禎一



スペースサイエンスに関連した研究をお手伝い頂いた学生は沢山おられますが、社会に出てからは、通信関係の仕事が比較的多いのですが、宇宙通信を含め宇宙産業に関連する分野で活躍された人が大変多かったのはやはり研究室の影響があったのでしょうか。宇宙科学は学際的な分野なものですから、日本では電気工学や、電子工学の学科で扱っておられるところが少なく、若干肩身の狭い思いも致しました。

平成7年度から改組になって1年間、大学院工学研究科電子通信工学専攻に所属し、メディア工学講座・電波メディア分野を担当致しました。何れにしても、この40年間、自分のやりたい研究にほんどの時間を使うことができたことになりました。

私は、本年3月末をもって永年お世話になった京都大学を停年により退官致しました。

思えば、工学部の新入生として京都大学の門をくぐったのは一九五一年4月のことであり、それから45年間も在学したことになりました。電気工学科に配属されたのは一九五三年4月で、それから数え

ると43年間、大学院博士課程を終えて助手として教室に奉職したのは一九六〇年ですから、教職に従事した年月だけでも36年間という

とは幸せなことでありました。ご理解頂いた教室の先輩、同輩、後輩の皆様のお陰と感謝しております。

平成10年9月には、我が電気工学教室は創設100周年を迎えることになりましたので、教室での最後のご奉公として、100周年事業のお立てをさせて頂いてまいりました。そのこともあって、退官後も洛友会の常任幹事をやるよう仰せつかりました。今後は洛友会側から、教室をバックアップする立場になります。精一杯務めさせて頂く所存であります。どうか洛友会会員各位におかれましてはこの事業へのご支援をよろしくお願致します。

(昭和30年卒)

ことになりました。この長年月の間、洛友会の皆様には公私ともにいろいろとお世話になりました。改めて厚く御礼申し上げます。

入学当時はまだ戦後の雰囲気の色濃く残る時代、そして朝鮮戦争の最中でありました。1回生の時に通った旧陸軍火薬庫跡地の宇治分校では、教室は爆薬庫に窓を開けただけの建物、敷地内に散在する池の底にはまだ砲弾などが沈んだままでした。宇治キャンパスは、今ではエネルギー理工学研究所

(旧原子エネルギー研究所及びヘリオトロン核融合研究センター)や超高層電波研究センターなど、多数の研究所と研究センターが立地する京大の研究村になっていきます。

私は、4回生の特別研究(卒研)では、チタン酸バリウム系の強誘電体を中心に材料の研究を始めておられた阿部清先生(大7卒)の研究室に入れていただき、当時は化学研究所教授であられた田中哲郎先生(14卒)や助手の川端昭先生(28卒)のご指導のもと、チタバリに鉛を加えて角型ヒステリシス特性の材料を焼く仕事に従事しました。旧式の堅型炉で、時に焼き芋などを焼いた思い出も残っています。

阿部先生は間もなく停年退官されたので、修士課程では田中先生の研究室にお世話になり、当時東大の後藤英一さんが提案されたデジタル回路素子パラメトロンを、強誘電体を使って作成する研究をやらせていただき、修論締切真近になってやっと発振を確かめることができました。そして自分なりにパラメータ発振過程の理論的解析を試みようと思ひ、非線形振動の世界的権威であられた林千博先生(9卒)に教えを乞いに行つて、それなりにうまく計算ができて、興味を覚えました。

その故もあり、また阿部、林両

先生方のお薦めもあって、博士課程からは林千博研究室に入れていただきました。そして、非線形電気・電子回路における高調波及び分数調波振動などについて、近似解析法や安陪裕さん(31卒)らが製作されたアナログ・コンピュータ、さらに一九六〇年頃からはデジタル・コンピュータ(KDCI)による研究をやりました。まとめた博士論文は「A Contribution to the Theory of Nonlinear Oscillations」と題するもので、一九六四年には文部省から刊行助成金を受けて出版され、国際的にも評価を受けることができました。

その後、一九六〇年電気工学助手、62年助教に任命され、72年4月には電気工学教室・計測制御工学講座担任の教授を拝命しました。その後工学部及び大学院工学研究科の改組により、一九九五年4月から最後の1年間は電気工学専攻・複合システム論講座の担任を務めました。その間、66年6月から68年3月までは、米国カリフォルニア大学(UCLA)の客員助教授、77年秋には2か月ほどオーストラリア国応用システム解析研究所の研究者、などを経験する機会を得ました。

さて、博士課程を終えた一九六〇年頃からは非線形振動のほか、最適制御理論とその宇宙飛翔体姿

勢制御・軌道移行制御などの研究を始め、UCLAに滞在した時代には当時アポロ計画の1中心であったロサンゼルスで欧米の研究者と共同研究を行うことができました。66年からの滞米中にはヴェトナム戦争が続いており、また中国での紅衛兵運動の勃発、各国における学生運動・大学紛争の激化など、世界的にみても騒然とした出来事が多発した時代でした。そしてまた、トランジスタ・ラジオなどわが国の電子機器が世界市場に進出し、鉄鋼など基礎素材の輸出増も日米摩擦の種になり始めるなど、産業経済面で日本の国際的地位が急速に高まりつつある時代でもありました。

68年帰国後には、最適制御に関しては大規模システムの分解・統合、製鉄など大規模・複合プロセスへの応用、数値計画法などの最適化手法とその大規模非線形システム(交通道路網、配水管路網など)の計画・設計・制御への応用、多目的最適化と意思決定支援システム、環境システムの評価と管理、などの研究を展開しました。ご承知のとおり、一九七三年と79年には2度にわたってオイルショックが発生し、それに対処するために学界でも産業界でも新エネルギーや省エネルギーの研究が盛んになりましたが、大学でも文部

省から科学研究費を受けて、80年度からは「エネルギー特別研究」、続いて87年度からは「エネルギー変換と高効率利用」重点領域研究が実施されました。私の研究室もそれに参加し、主としてエネルギー需給システムの最適計画及び運用・評価の観点から、また地球規模の環境保全の観点から研究を進めました。重点領域研究では領域代表を仰せつかり、全国の、また世界のさまざまな研究分野の先生方の知己を得ることができました。国内では、東大の茅陽一、阪大の鈴木胖、京大経済研の佐和隆光などの先生方と、特に親しくしていたことができました。いうまでもなく、エネルギー・環境の問題は21世紀人類文明の存否を左右する大問題であり、今後、もちろん産業界とも密接な関係を強めながら、国際的・学際的視野に立つて研究を推進していく必要があります。

一方、大規模システムの計画・設計・運用などを効率的かつ安定的に、加えて柔軟性をもって行うには、システムの自己組織機能に注目し、また自律的な機能を具えた要素が協調的に動作することが不可欠であるとの考えに基づいて、東工大の市川惇信、名大の伊藤正美、東大の北森俊之、阪大の須田信英らの諸先生と「自律分散システム」の概念を提唱し、一九

九〇年度からは同名の重点領域研究を実施することができました。さらに、その考え方を発展させた「創発的機能形成のシステム理論」の重点領域研究も95年度から進行中です。それらの契機ともなった「バイオ・インフォーマティクス研究会」は85年に始めたものですが、脳・中枢神経系などの情報処理・学習機能、また遺伝や進化など生命体に独特のシステム機能に学ぶシステム論の展開を目指したもので、元神戸大学長の須田勇先生(脳神経生理学)、京大理学部におられた故寺本英先生(数理生物学)、日高敏隆先生(動物行動学)、若手では神戸大の北村新三さんら、多くの方々と貴重な議論の場を持つことができました。

もう一つ、一九九二年末に科学技術会議の第19号答申として出された「ソフト系科学技術」の基本計画策定に専門委員として参加し、それを受けた総合研究「システムと人間の調和のための人間特性に関する基礎的・基盤的研究」にもメンバーとして加わる機会を得たのも幸いでした。以前から心の中にあつた、「人間のための科学と技術」の考え方を具体的にまとめ、いささかなりと研究に反映する場とすることができたからです。間もなく終わろうとしている20世紀は、科学と技術が飛躍的に発展

した世紀でありました。現代の人類はその絶大な恩恵を蒙るとともに、反面では環境の劣化、資源の枯渇、人間性の疎外、南北格差の増大など、さまざまな深刻な問題に直面してまいります。21世紀にはこれらの問題複合体と正面から向き合って、その解決を図らねばなりません、その出発点となるのは人間自身とその社会についてより基本的な理解を深め、「ヒト」と「モノ」を融合させた科学・技術の新しいパラダイムづくりを図ることではないでしょうか。

京大在任中の終期には、評議員工学部長、原子エネルギー研究所長、さらには総長特別補佐などを仰せつかって、柄にもなく大学の研究・教育体制の改革に携わりましたが、一方ではわが国産業活動の推移を見、また一方では世界の先進国のみならず発展途上国の実情を見ますと、わが国の高等教育と基礎研究の在り方を真剣に見直し、産官学協調・国際協力などを含めて早急に取り組むべき課題が山積していると思われまます。

退官後、私自身は幸いにして、この4月に創設された大阪工業大学情報科学部に学部長として勤務させていただくことになりました。非力ながら、なお暫くは教育・研究に従事致しますので、今後とも洛友会諸兄のご指導・ご支援を切

佐々木昭夫教授退官記念シンポジウム・パーティーのご案内

左記の通り、佐々木昭夫教授の退官記念シンポジウム・パーティーを開催致します。ぜひ御参加下さいませようお願い申し上げます。

記

一、記念シンポジウム

日時 平成8年11月16日(土)午後1時30分より5時10分
場所 都ホテル東館三階山城の間
講演 シャープ中央研究所所長 橋爪伸郎氏
「個のマルチメディア」へ向けてのデバイス開発
松下電子工業総合研究所所長 加納剛太氏
「21世紀への夢…壁掛けテレビの実現に向けて」
「プラズマディスプレイの開発」
三洋電機研究開発本部長 桑野幸徳氏
「オプトエレクトロニクスが切り開く新しいエネルギー時代」

パネル討論「21世紀のエレクトロニクス」
司会 通産省電総研電子デバイス部長 坂本統徳氏
パネラー 村田製作所開発本部長 有吉 昶氏
日本電気マイクロエレ研所長 阿部浩之氏
富士通研究所副社長 高梨裕文氏
三菱総合研究所専務取締役 杉野 昇氏

二、記念パーティー

日時 平成8年11月16日(土)午後5時30分より8時
場所 都ホテル東館三階山城の間
連絡先 〒606-01 京都市左京区吉田本町
京都市工学研究科電子物性工学専攻科
野田 進 (075-753-15297)

にお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

役 (昭和16年卒)
平成7年11月3日付

会員動向

一、勲一等瑞宝章 受章
松谷建一郎
中国電力(株)取締役常任相談

二、勲三等旭日中綬章 受章
高木俊宜(京大名誉教授)
發明功勞 (昭和22年卒)
平成8年4月29日付

間に合った平成改元

松橋達良(昭17卒)

土地の人民を支配するだけでなく、時間と空間支配の象徴として中国歴代王朝の皇帝は元号を建ててきた。これが中国における元号制度の観念で、前漢の武帝が西暦紀元前140年に「建元」なる元号を建てたのがその始まりとされている。この制度はそれ以後日本、朝鮮、ベトナムといった中国周辺各国の王朝や、柔然、渤海、高昌、南詔といった塞外各国など、東亜漢字圏の国々に広がっていった。そして現在までに建てられた元号の数は、中国正統王朝750、中国群雄盗280、塞外王朝150、ベトナム170、日本250で、総数1600にも達している。しかし日本を除いて、これら東亜漢字圏の諸国で王朝そのものが全て消滅してしまっている現在、この伝統的な元号制度を残しているのは日本だけになってしまった。

明治の改元と追認

我が国における明治以前の改元は、特に指名された複数の元号勅者なる者が、年号勅文に指定されている四書五経に始まる中国古典の中から幾つかの候補の元号文字を選び、これらについて審議難陳(反対賛成の討議)し、その内容を付けて上奏すると、天皇はその中から一つを勅定して改元詔書を発すると言うものであった。

元号は大体が皇帝一代の中で何回か改められるのが普通で、一世一元の方がむしろ少ないようである。多いところでは唐の高宗の在位39年間に14回、則天武后の15年間に14回、次いで前漢の武帝の52年間に11回、北宋の仁宗の33年間に9回がある。我が国でも後花園帝の8回や堀河帝、後堀河帝の7回がある。

ところが明治になると、頻繁な改元に対する反省と言う訳でもあるまいが、明治初期の憲法学者は、明治元年9月、元号を一世一元と定め、さらに「天皇踐祚の後は直ちに元号を定む、元号は枢密顧問に諮詢したる後にこれを勅定する」と定めた。そしてこの元号一世一元の定めは、かなり後の明治22年2月11日公布の皇室典範第12条の「踐祚の後、元号を建て一世の間に再び改めざること、明治元年の定制に従う」で追認された。

また改元手続きは、これよりさらに後の明治42年に公布された皇室典範付属法の登極令(踐祚および即位礼、大嘗祭、元号などに関する規定を定めた旧皇室令)第二条第一項の「天皇踐祚の後は直ち

に元号を定む」で、これまた追認された。

敗戦後の動き

このような次第で明治、大正、昭和ときたが、敗戦後の昭和23年新たに皇室典範が定められたとき、どういふ訳か旧典範第12条の元号条項が削除されてしまい、その結果、元号の法的根拠が全く失われた格好になった。しかし法的根拠がなくなったと言っても現にある「昭和」は、旧典範で定められたもので、これを廃止するとはどこにも決められていないとかなんとかいうことになって、「昭和」は引き続き使われることになった。

つまり今ある元号は合法だが、代替わりの時どうなるかは知らんと言った全くおかしな状態になってしまった。

こうした状態の中で当然の事ながら、元号廃止の動きが出てきた。これを推進したのは、当時いわゆる文化人と呼ばれていた参議院緑風会の田中耕太郎、山本有三といった人達で、彼等は「昭和25年の次の年の名称を一九五一年とする」を骨子に法案を考えた。しかし当時は文化財保護法の制定に勢力が割かれ、保護法が無事制定された後はもう関心もなくなってしまうのか、元号廃止の案件は法案の形にもまとめられずに流れてしまった。またその後文化人が集

まって話し合ったときも、田中館愛橋さんのように「私のように長生きすると安政、万延、文久、元治、慶応、明治、大正、昭和と八つの世代を顧みないといけない、西暦のほうがいい」と言ったボケたような話まで出たと言われている。

間に合った平成改元

しかし戦後のこう言った問題の流行期も過ぎて、世の中が新たな発展期に入ってくるにつれ、元号問題も落ち着くところに落ち着き、昭和54年6月、元号法が法律第43号をもって成立した。それで、ふざけた言い方も知れないが、元号に関する限りいつ退位や崩御があっても大丈夫な仕組みになった。

なにせ戦後永きにわたって議論を呼んだ末に出来上がった元号法であるから、私はそれが如何なる文言のものかと当ってみて驚いた。法律とはこんなものかも知れないが、元号法に曰く、
一、元号は法令で定める
二、元号は皇位の継承が合った場合に限り改める
付則
一、この法律は公布の日から施行する
二、昭和の元号は本則第一項の規定に基づき定められたものとする
たったこれだけである。しかし

それから10年、「平成」はこれにより無事世に出ることになった。が、漢学者がどれだけの知識を傾けてこの対の元号文字を掘り出してきたのか私は知らない。これはすぐにも広く国民に由縁を伝えるべきことではないかと思ったが、その出典や撰進趣旨が政府から報道されたのは、かなり経ってからであった。

いずれにしても、新しい元号法制定の昭和54年6月以前に、もし何かが起こっていたら、どういふことになっていただであらうか。

元号の読み方

明治以前は、元号の読み方を示す慣例はなく、仮名遣いの原則も確立していなかった。そのため読み方は必ずしも一定せず、人により区々の読み癖で通ってきた例が少なくない。そこで、歴史にも造詣の深かった国語学者の山田孝雄氏は、日本元号の読み方を示す典籍・文書に広く当って、昭和25年「年号読方考証稿」を公刊した。

そして元号文字は漢音で読むことと内閣告示第一号によって公示されている。

元号制度

元号を用いて元号何年で年を通算していくことに反対し、キリスト紀元によるべきであるとする向きもある。すなわち、
一、キリスト紀元による方が国際

的であり、便利である。

- 二、元号は天皇主権の印象を与え、憲法の精神に反する。
三、学問研究、歴史教育上不便である。
四、キリスト紀元法は、西欧勢力圏のみならず、かなり広くの範囲で用いられている。

勿論その言うところに一考に値するものがないとは言わないが、どうもその論旨で、意味不明な「国際的」なる概念を出し、憲法違反を唱え、他国における採用に事寄せたりしており、またその便利性的の意味付けにも深さが感じられない。そしてそこには、歴史

的所産に対して、偶々現在に存在している我々が如何に考えるべきかと言う基本命題についての論が見られない。また天皇主権云々もこれをうまくこなしていくのが民族の力であり、明治の富国強兵や天皇の名をかたがたった国家主義も歴史の一駒一駒にすぎないという点に、言い及んでいない。

我々が日常生活面である時点を意識する範囲は、せいぜい百年前までである。ある時代に数十年しか生きない我々、つまり生存期間中に身近に意識する時代が二つか三つの元号に限られる者にとつては、日常の社会事象が元号年代をもって表現される方が、はるかに鮮明に受けとめられる。私が京都

の電気を出したのは昭和17年で、一九四二年では全くピンとこない。元号制度のなかに埋まり込んでいるからそう感ずるのだと言われるかもしれないが。

昔のように目まぐるしく変わる元号ならともかく、一世一元ならその時代に生きるものにとつては誠に便利で、今の時代、明治、大正、昭和は現在の我々の日常生活に密着している。これらの元号も未来の人々には、いずれ今の我々にとつての治承、応仁、元禄と似たような響きのものなるうが、いずれそうなるからキリスト紀元にしてしまえと言うことにはならない。

世界は一つ。これからの人類は地球家族として生きていく時代に入っていくが、それは各民族、各国民が、それぞれ特異性と多様な個性を持ち互いに尊敬し合いつつ共存していくべき時代である。その場合、歴史や伝統こそ世界家族それぞれの家宝であり、それを持たぬ民族、国民はこれからは決して評価されなくなる。歴史的社会所産は減多なことで棄ててはならない。

東京都世田谷区上北沢3-23-20
TEL 03-33303-4848

近況報告

船越孝夫(昭22卒)

平成6年7月、四国産業・技術振興センター理事長を退任して、毎日が日曜となりました。

かねて、その時になれば何とかなると高を括っておりましたが、することがないというのは誠に困ったものだと思います。「生き甲斐」とまでいなくなるとも、楽しく、充実した日々を過ごすにはどうすればよいか課題となりました。

考えてみれば贅沢なことで、夫婦揃って健康で生活に困ることのない身で、自由に使える時間をもて余すとは不甲斐ない次第であります。取り敢えず応接間を書斎に変更し、晴耕雨読の体制を整えましたが外での仕事はなく、読書三昧の心境には程遠く、家にじっとしているのは性分に合いません。何はともあれ、予定のある空白の少ない生活とて思い、先々の予定を忘備かたがたダイアリーに書きとめ、予定のない日はゴルフ・囲碁等遊びにあて、家にいる時は、屋島登山、読書、ゴルフ素振り、家内と買物等でテレビは昼間はゴルフ、囲碁以外あまり見ないよう

にしています。

以上のような次第で平凡な日々であります。近況を報告いたします。

『妻との日々』

私がフリーになるのを待っていたのは家内で、長い勤めを無事終えることができたのは家内のお陰であり、リタイヤ後はまず家内との日々を大切にすることから始めなければと殊勝に思いました。

ところが、これまで家のことは万事任せ切りで私は家事にうとい反面、家内は家事万端のほか、趣味と友達を持って、内外ともに安定したベテラン主婦であり、暇になつた私に家事教育をしようと思つてくれるのであります。加えて、家内は長年の酷使のせいか足腰が少し弱くなつて、私に家事手伝いを期待しており、結局一緒にできることは二人でとなり、毎日の買物、散歩、街の見物、庭掃除など主婦業に参加しておりますが、結構楽しいものであります。

夫婦共通のイベントは旅行で、国内外のツアー、大型客船のクルージング、京・浜に住んでいる子

供達3家族との交流のほか、月一度徳島の田舎へ家の風通しと草むしりに帰るのも恒例行事となっております。

毎日、夕食を家でするようになって、家内が少量ながら晩酌に付き合うようになりました。

『社会活動』

○(財)オイスカ産業開発協力団

仕事がなくなれば、何か社会活動をしなければ充実感を得られないのではないかと考えていました。藤相談役からOISC Aの仕事を手伝って欲しいとの話があり、早速入会し、会員拡充、国際協力四国の集い、植林活動、月例幹事会等に従事しています。

今夏はインドネシア・スマトラでの「子供の森」植林と支援校づくりにより3人の孫を連れて参加する予定です。

○香川・徳島県人会

香川における徳島県人会の会長を引受けておりますが、総会、月例会、ゴルフ会、忘年会、近隣県人会との交流等、多様な催しがあり、色々な方々との出会いと会話を楽しんでおります。

特に、今年が発足以来45周年になるのを記念し、全国県人会にさきがけ、200頁余の記念誌を作成す

ることとし、ユニークで魅力のあるものにしようと目標を高く掲げ、編集打合せに追われております。

○碧山会

碧山会とは、昭和49年高松在住の旧制高等学校卒業者の集いから始まった会で、名称は初代会長の高橋正八先輩が青い国四国にちなんで李白の「山中問答」より名付けたものであります。

会の精神は、サミュエル・ウルマンの「青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ」ではじまる青春の気概をモットーとし、懇親会のあとは青春讃歌となり、北は北大予科の「都ぞ彌生」から南は台北高校の「獅子頭山に雲みだれ」に至る参会者各校の寮歌を高吟し、最後は「琵琶湖周遊歌」を合唱し散会します。会員は歴代高松高検々事長を会長とし、知事、大学々長をはじめ各界の先輩が集る、全国的にもユニークな会で会場では互いに先輩と呼ぶことになっております。

たまたま、2年前に会の立役者であった代表幹事が亡くなり、以後小生が庶務幹事となり数名の幹事と合議により運営しております。

○交友

人生を豊かにするのは友人であり、中でも学生時分の友人は気が置けなくて楽しく、長い空白後に会っても昔の儘の気分で話し合えます。「友あり遠方より来るまた樂しからずや」を逆用し、上京、上阪の機会には友人を訪ねることになっています。

古稀を過ぎると鬼籍に入った新しい友が幾人かおり、裏山の屋島寺に登る度に冥福を祈っております。

同窓会は中学・高校が盛んで大学が少ないのは残念であります。来年は、大学卒業50周年を迎えるので在阪の諸兄のご尽力により待望の同窓会が開催されるよう念願しております。

○ゴルフ

プライベートゴルフコンペに10程入会しており、月に数回ゴルフを楽しんでおります。四国では70歳以上になると、何処かのメンバーであれば、平日はメンバー扱いするゴルフ場が多く、グランド・シニア優遇制度が普及しております。日頃、年配のゴルフ仲間です。生きている間はゴルフができ、

『遊 び』

機械に遊びがなければ動かないように人にも遊びは欠かせません。

80歳過ぎてポツクリ死ぬのが大往生」と話し合っています。

ホームコースの志度CCには岸信介の「心技体一如」の額がありますが、最早「技体」の方はどうにもならない私には心の持ちよう一つに掛っております。

○囲碁

碁は、中学時分に祖父と父に教わりましたが、師匠がざる碁であったため始めた年の割に上達せず、大学に入って日立製作所の園山副社長と友人になったお陰で鍛えられ現在四段格であります。大学時代の好敵手に奥田豊君がおり、郵便碁の挑戦を受けておりましたが果たせないまま一昨年亡くなりました。

洛友会四国支部の囲碁は多士済済で、先に支部長をされた阿部要(8卒)、中川修一郎(15卒)両先輩をはじめ、実力ナンバーワンの富田盛夫(23卒)日本棋院香川県本部長以下有段者が目白押しであります。

月例の囲碁会に二つ入会しているほか、碁会所には二ヶ所顔出ししています。碁は、相手が少なくて済み頭の体操にもなり、リタイヤ後の恰好の遊びとなっております。

○麻雀

30歳過ぎて、麻雀好きの課長を上司に持って秘かに友人に教わったのが病み付きでゴルフを始めるまでは最も熱中した遊びでありました。リタイヤすると急に機会が少なくなり、更に3人打ちが殆どとなり、4人打ちの相手が少なく、月一度常連で囲む程度となりました。

麻雀は昼間の仕事の気分転換に現役の方がする遊びで、暇の多い老人がするものではないようです。なお、40歳以下の人は殆ど麻雀をしないようであり、亡びゆく遊びかも知りません。

以上とりとめもなく、申し述べましたが、現役時代に比べ良いこ

総会報告

平成8年度洛友会総会

平成8年度総会は、5月25日(土)午後4時10分よりホテル京阪京橋7F(かがやきの間)において、60名参集のもとに、関西支部と合同で開催し支部総会に引き続き行なわれた。

総会は、木村磐根常務理事の司会で始まりました。開会挨拶は大谷会長がお身体不調、静療(自宅)のため欠席されたので、近藤副会

と云えば、仕事の上で血圧が上がるような思いをすることがなく、付き合いでつい呑み過ぎて二日酔いすることもなくなり、日常生活がマイペースで健全になったこととあります。

それだけに、刺激が少なく、物足りない一面もありますが、「菊を採る東籬のもと、悠然として南山を見る」と達観すべきであろうと思っております。



長が挨拶された。

「京都大学が明治30年開校して来年創立百周年を迎えるが、電気工学科は、一年おかれて明治31年発足し平成10年をもって創設百周年を迎えることとなります。その間六千九百九十九名が卒業され、居所不明している会員数五千五百五十五名、居所不明者一六四名、物故者一千二七〇名になっている。従って毎

年平均70人卒業されたことになる。この百周年という記念すべき時に、各種記念事業計画を行いたいと考えておりますのでご協力を賜りますようお願い申し上げます。(前記の創設100周年記念事業についてご参照ください。)

があった。続いて、矢木原事務局長より、平成7年度事業報告および収支決算報告、平成8年度事業計画および収支予算案が説明され、次の議事で、洛友会会則一部変更(第5条)の件と役員変更の件が提案された。各案件とも審議され、事業計画で講演会等の行事を多くしてほしいと力強い発言がありました。なお、それぞれ原案通り可決された。なお、平成7年度決算と名簿広告募集状況、平成8年度予算と支部交付金等は、別表をご参照ください。

引き続き、安陪教授(幹事)から京大大学院工学部研究科の教官の異動と新しくエネルギー科学研究科が設置されたこと等報告があった。次にこの春の卒業生の進学就職状況について資料で報告された。(詳細は会報4月号6頁参照ください。)

- 平成8年度は、
電気電子工学科長
昭和37年卒 松波弘之教授
- 電気工学専攻主任
昭和40年東大博 宅間薫教授
- 電子物性工学専攻主任
昭和37年卒 松波弘之教授
- 電子通信工学専攻主任
昭和46年卒 吉田進教授

平成7年度収支決算

平成7年4月1日から平成8年3月31日まで

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 備考. Rows include 会費(学部), 預金利子, 広告掲載料, 雑収入, 収入小計, 前年度繰越金, 合計.

平成8年度収支予算

平成8年4月1日から平成9年3月31日まで

Table with 4 columns: 科目, 予算額, H7決算額, 備考. Rows include 会費(学部), 預金利子, 広告掲載料, 雑収入, 収入小計, 前年度繰越金, 合計.

支出の部 (単位:円)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 備考. Rows include 名簿編集費, 電算機処理費, 印刷費, 発送費, 会報編集費, 通信費, 会員原簿管理費, 会合費, 総会費, 集金費, 消耗費, 旅費, 懇話会補助金, 支部交付金, 事務人件費, 雑費, 予備費, 支出小計, 次年度繰越金, 合計.

支出の部 (単位:円)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, H7決算額, 備考. Rows include 名簿編集費, 電算機処理費, 印刷費, 発送費, 会報編集費, 通信費, 会員原簿管理費, 会合費, 総会費, 集金費, 消耗費, 旅費, 懇話会補助金, 支部交付金, 事務人件費, 雑費, 予備費, 支出小計, 次年度繰越金, 合計.

預金及び現金

平成8年3月31日現在

Table with 2 columns: 普通預金, 定期預金, 当座預金 and 郵便振替, 現金. Values: 1,085,207, 10,000,000, 241, 806,414, 130,605.

合計 12,022,467

平成8年5月9日、応用科学研究所において、領収書、帳簿等関係書類を慎重に監査し、支出及び決算が適正であると認めました。

常任幹事 木村 馨 根

平成7年度名簿広告募集状況 (単位:円)

Table with 5 columns: 支部名, 件数, 総額, 本部納入額, 支部収入額. Rows include 東京, 関西, 中国, 四国, 九州, 中部, 東北, 計, 平成5年度.

平成8年度支部交付金 (単位:円)

Table with 4 columns: 支部名, 交付金額, 支部名, 交付金額. Rows include 北海道, 東北, 東京, 中部, 北陸, 計.

北海道支部総会

平成8年4月22日(月)に、札幌「きょうさいサロン」で開催された。支部会員16名のうち11名が出席した。本年は新しく高見昭宏(45卒)井澤一期(56卒)、石坂裕昭(平5卒)の3氏が出席されたことは、小世帯の支部としては嬉しいことであって、半世紀を超える世代の差を感じさせない程に、和やかに話が弾んだ。

前回約束しながら実現できなかったゴルフは、今年7月7日(日)と決めた。楽しい懇親になるものと期待している。



入院中のため欠席の師尾守泰、(17卒)は数日後に退院し、プレーは無理しないが、応援にかけつけて皆さんの顔を見たいとの元気な声の後日あった。

支部役員は、池内支部長(21卒)ほか全て留任と決まった。

前記以外の出席者は、西村正巳、(12卒)芝山龍一(28新卒)、谷村實(31卒)中山道夫(33卒)土橋多一郎、(34卒)内藤規雄(40卒)、木元伸一、(平1卒)

(幹事 芝山龍一記)

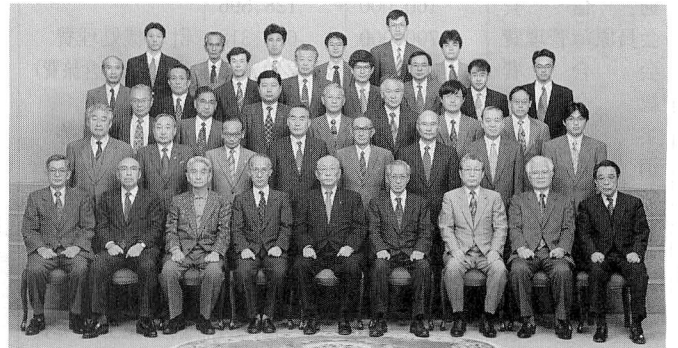
中国支部総会

平成8年5月10日(金)広島全日空ホテルにおいて平成8年度洛友会中国支部総会が開催されました。

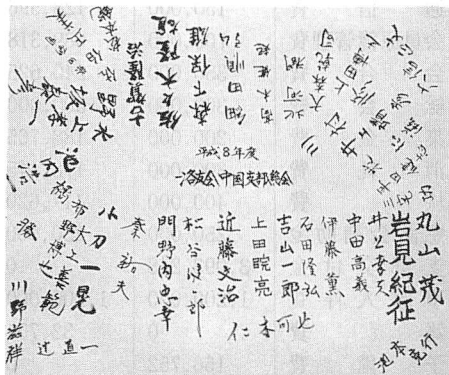
総会には、本部より近藤文治先生、教室より上田院亮先生をお迎えし、中国地方各地より松谷健一郎支部長をはじめ、会員38名の参加を得て盛大に実施されました。

上田先生には総会に先立ち、中国電力(株)において『カオス現象とは』という演題で講演をしていただきました。

総会は、高木健起幹事(43卒)の司会で、松谷支部長の挨拶から始まり、次に事務局より、会員の異動状況、支部活動状況の報告を行いました。今年度の支部活動としてゴルフコンペの開催を提



平成8年度 洛友会中国支部総会 H.8.5.10 広島全日空ホテル



案し、出席会員の賛同が得られ、実施することとなりました。続いて会計報告、予算案の説明を行いました。次に、近藤先生より本部の近況

について、上田先生より教室の最近の状況について報告頂きました。議事が滞り無く終了し、別室で写真撮影の後、ホテルの最上階にて懇親会に移りました。先生方との歓談、会員同士の交歓など会は和やかに進行し、大いに盛り上がりました。

午後8時過ぎ、次会の再会を誓って散会となりました。
庶務幹事 池本克行(昭62卒)記。

九州支部総会

5月17日(金)、福岡市博多駅前ホテルステーションプラザにおいて、平成8年度洛友会九州支部総会が開催されました。

当日は、本部から近藤文治副会長、教室から荒木光彦教授をお迎えし、主に北部九州の会員23名が参加しました。

総会は、まず立食パーティーで始まり、近藤先生、荒木先生を囲みでの歓談、久しぶりに会う会員同士の交歓などなごやかに行われました。

引き続き、場所を変えて会食の懇談会に移り、近藤先生から、初めて海外にご出張された時の思い出話など興味深いお話を拝聴し、また、電気系の百周年に伴う洛友会の法人化の動向を承りました。荒木先生からは、エネルギー科学

研究科の設置など教室の近況報告や今後の大学院の方向性を承りました。

会員同士の歓談の合間を縫って、総会議事である平成7年度会計報告ならびに平成8年度九州支部行事の提案があり、承認されました。この中で先に行った九州支部の活性化に関するアンケートの集約結果並びに、これに基づき、より多くの会員の方々が参加できるように昼食会の開催日を変更する等の配慮を行う旨の報告がありました。また、本年度は、役員の交代が幹事から提案され、満場の拍手をもって承認されました。支部長は、



平成8年度 洛友会九州支部総会 H.8.5.17 ホテルステーションプラザ

長年お世話いただいた上田保之氏(昭27年卒)から、大園繁治氏(昭34年卒)へ交代され、新旧支部長のご挨拶がありました。

引き続き、新会員の岡崎幸治氏(平成8年卒)の自己紹介、岩崎英男氏(昭22年卒)のご自宅の畑での自然とのふれあいのお話など、各会員のみなさまの近況報告で、終始なごやかな雰囲気の中、大いに話がはずみました。

会も最高潮に盛り上がったところで、残念ながら時間となり、次の再会を誓って散会となりました。

(平成元年卒、清水健一(記)

洛友会役員変更通知

5月25日、本部総会において左記のとおり退任(退)及び新任(新)承認されました。

記

- 副会長 昭30 佐々木昭夫退整
- 昭31 小倉久直新整
- 顧問 昭7 前田憲一死亡
- 幹事 昭16 三国文治郎死亡
- 昭30 木村磐根新整
- 昭31 安陪 稔新整
- 昭37 松波弘之新整
- 昭41 荒木光彦退整
- 推薦 矢木原邦雄退整

右記以外の役員(顧問、会長、副会長、幹事及び常任幹事)は変更ありません。

関西支部役員改選通知

平成8年度関西支部総会において左記の通り役員の変更がありましたので通知致します。

記

- 支部長 昭27 木村陸朗(退任)
- 昭28 新鷲見 禎彦(新任)
- 副支部長 昭29 井上和夫(新任)
- 昭47 上田成之助(退任)
- 昭40 森本浩志(新任)
- 昭56 尼田賢光(退任)
- 昭53 湯川英彦(新任)

東京支部役員改選通知

平成8年度東京支部総会において左記の通り役員の変更がありましたので通知致します。

記

- 支部長 昭29 伊藤利朗(退任)
- 昭30 荻島興三(新任)
- 昭31 近藤光洋(新任)
- 昭51 辻本雅彦(退任)
- 昭52 七原俊也(新任)
- 昭53 永井啓喜(新任)

九州支部役員改選通知

平成8年度九州支部総会において左記の通り役員の変更がありましたので通知致します。

記

- 顧問 昭5 河本勝寿(留任)
- 昭22 深町藤吉(留任)
- 昭27 上田保之(新任)
- 昭34 大園繁治(新任)
- 昭29 前波 武(退任)
- 昭35 岡 範彦(留任)
- 昭38 真栄城朝章(新任)
- 昭39 大内一紀(留任)
- 昭41 加藤勝彦(新任)
- 昭47 中村道昭(新任)
- 昭48 石井日出男(新任)
- 昭11 加来誠一郎(留任)
- 昭12 安田振之助(留任)
- 昭13 山口高雪(留任)
- 昭21 増岡健一(留任)
- 昭26 大倉富士雄(留任)
- 昭33 勝木将文(新任)
- 昭41 宇野克彦(新任)
- 昭56 柴戸義彦(留任)
- 昭62 工藤靖弘(新任)

東京支部見学会報告

東京支部では平成8年3月5日(火)に見学会を開催しました。見学会は、支部長の伊藤利朗氏(昭29卒)にお願いし、鎌倉市大船にある三菱電機(株)の情報技術総合研究所等としました。

当日は、まだ寒さ厳しい中にも関わらず、70名を超す多数の参加者があり、予想を上回る大変な盛況となりました。

況となりました。

見学会では、まず同社の研究所組織全般についてご説明を頂いた後、デザイン研究所における活動のトップクスの御紹介を頂きました。その後、3班に分かれ、情報技術総合研究所や住環境研究開発センターなどの見学に移りました。見学では、立体映像によるコンピュータグラフィックス画面の迫力に圧倒されるとともに、ハンデイ装置による電子新聞の購読が可能となるなど、情報分野での時代の動きの早さにも驚かされました。またこれ以外にも、情報セキ

東京支部

ゴルフ会報告

平成7年度のゴルフ会は、3回開催しました。ご案内は昭和8年卒の方から昭和50年代卒の方々約140名に送っています。年齢、ハンデイヤップを問いませんので積極的にご参加して下さい。

第74回では、初参加の林潔氏(昭10卒)がグロス98(ハンデイヤップ20)の見事なスコアで第5位に入賞されました。また、関西からは栗原英三氏(昭27卒)が参加されました。成績は、次頁の通りです。



リテイ、アンテナ、住宅設備機器などに関する興味深い新技術を御紹介頂きました。非常に興味深い内容であったため、見学の後の質疑応答の時間には質問がひきもきらない状況でした。

この意義深い一日を過ごさせて頂くにあたって、三菱電機(株)の関係者の方々には、ご多用中にも関わらず、多大な便宜をはかって頂きました。末筆ながら、紙面を借りて、深く感謝の意を表します。(昭和52年卒会計幹事 七原俊也記)

開催回	75	76	77
開催日	H 7.7.13	H 7.10.31	H 8.4.11
場所	桜ヶ丘CC	小金井CC	相模原CC
参加者数	35人	34人	38人
優勝	石黒公 40 ^卒	坂入吉彦 28 ^卒	村井寛治 22 ^卒
2位	北村哲男 35	岡本明 27	都木周作 23
3位	舟田正男 24	神尚通 23	小西達夫 33
4位	安原碩人 33	石黒公 40	内藤勲 40
5位	内藤勲 40	林潔 10	別所義夫 42
7位	室賀弘 27	鴛海修三郎 28	松岡行雄 19
10位	河原滋 23	樋口寔 22	園山裕 22
15位	村井寛治 22	甲斐靖造 16	舟田正男 24
20位	北野豊 24	北爪隆夫 15	池上文夫 22
25位	森巖 18	北野豊 24	植田勝比古 18
30位	田中信高 8	安田嘉之 26	鴛海修三郎 28
35位	—	—	林潔 10
BB賞	河野勝也 9	高木正 10	山澤穰 38
当日賞	渡辺寿夫 32	田中信高 8	神尚通 23
特別賞	中島達二 22	筑木二郎 14	立川昭三 26

連絡先 TEL045-891-1711
舟田まで

幹事 舟田正男(昭24卒)記

第65回関西支部

ゴルフ競技会報告

第65回関西支部ゴルフ競技会が平成8年5月19日(日)武庫ノ台ゴルフコースにて開催されました。当日は絶好のゴルフ日和に恵まれ、総員38名(シニアの部11名)で競技が行われました。

結果は次の通りです。
優勝 鴨川利朗(35年卒)
2位 清原道也(17年卒)

3位 長尾 真(34年卒)
(シニアの部)

優勝 清原道也(17年卒)
2位 杉山和夫(26年卒)

次回は10月13日(日)武庫ノ台ゴルフコースにて開催の予定です。多数のご参加を歓迎しております。

(連絡先)

関西電力 森本浩志(40年卒)
米満英二(63年卒)
TEL 06-441-8821 線3524
内線3524

各支部行事(予告)

一、関西支部行事

①第66回ゴルフ競技会

期日 10月13日(日)10組
場所 武庫ノ台ゴルフ場
会費 約2万4千円(当日)
連絡先 幹事関西電力森本・米満まで

TEL 06-441-8821
内線 3524

②家族見学会

恒例の家族見学会は10月27日(日)、関西電力(株)大飯原子力発電所等の見学を予定しています。近日ご案内状をご送付しますのでご期待ください。

予定日 10月27日(日)
参加費 大人6000円
小人3000円

連絡先幹事関西電力森本まで

TEL 06-441-8821

二、九州支部行事

昼食会

日時 8月28日(水)

11月27日(水)

2月26日(水)

場所 『ロビーSA・AN』

三和ビル地下1F

福岡市中央区天神1丁目

10-10

TEL 092-712-4608

会費 2500円

(ただし遠方の方は無料)

三、中部支部行事

①家族同伴「秋の例会」

初秋の京都を訪れ、信長ゆかりの大徳寺総見院特別公開と、これも特別公開の真如堂を拝観いたします。家族ご同伴でご参加下さい。

日時 10月5日(土)8時出発
集合 名鉄メルサビル西口
(岐阜集合の貸切バス)

会費 大人8千円(児童半額)

②懇親「ゴルフコンペ」

日時 11月16日(土)
場所 鳴海cc 4組
会費 約2万3千円(当日)

編集後記

長雨が続く梅雨があがると、暑い夏本番。夏といえば夏祭が各地でおこなわれる。京都は祇園祭、「コンチキチン」の祇園囃子が響きわたっています。

はじめに印刷違いを訂正願います。会報4月(第175号)の6頁、佐々木昭夫教授退官記念講義ならびに退官記念講演会・パーティーのご案内、左記の通り、佐々木教授の退官記念講義ならびに退官記念講演会・パーティーを開催致しましたとありますが、間違いで、表題は、佐々木昭夫教授退官記念講義

のご案内と、また、左記の通り、佐々木教授の退官記念講義を開催致しますとつしんで訂正いたします。

会報をかりましてご挨拶を申し上げます。事務局の矢木原邦雄です。この度一身上の都合により退任することになりました。

長年にわたる会員の皆様のご協力、ご支援により大過なく仕事が出来ました。厚く感謝いたし、心よりお礼を申し上げます。

洛友会の今後益々のご発展をお祈りしております。

訃報

講大15	松浦 忍	7.11.7
昭元	稲垣清明	7.9.29
昭3	富村精雄	8.4.15
講昭6	松村暁夫	7.11.2
昭7	浅井光枝	8.2.10
講昭8	内海吉一	8.2.27
昭13	桧垣貴雄	8.3.10
昭18	若松英作	
昭24	二松 良	7.11.10
昭28	東 徹	7.12.19
昭28	安芸 修	7.6.20

以上の方々のご逝去をなさいました。謹んで哀悼の意を表します。